

令和4年度

# 相双地域医療体験研修

令和4年8月26日(金)

実施報告



福島県相双保健福祉事務所



ゆったりが、  
どっさり。  
～ふくしま相双～

## 令和4年度相双地域医療体験研修実施要領

### 1 研修の目的

東日本大震災により県内で最も大きな被害を受けた相双地域の医療や復興の現状について、医療機関や被災地の視察を通して理解を深めてもらう。

### 2 開催日

令和4年8月26日(金)

### 3 対象者

福島県立医科大学医学部生10名（3年生8名、1年生2名）（うち1名は当日欠席）

### 4 集合・解散場所

福島県立医科大学 7号館付近駐車場

### 5 行程

別紙のとおり

### 5 研修内容

#### (1) NPO 法人とみおか 3.11 を語る会

語り部による口演を聴き、東日本大震災の当時の状況や様子について学ぶ。

#### (2) 医療法人社団邦論会 とみおか診療所

被災地における地域医療についての講話を通じ、その現状と課題等について学ぶ。

#### (3) ふたば医療センター附属病院

ふたば医療センター附属病院の取組みについての講話や看護師との交流、院内の見学等を通じ、被災地の医療機関の役割や医療・介護・福祉等の現状と課題等について学ぶ。

#### (4) とみおかアーカイブミュージアム

富岡町の成り立ちを伝える地域資料や震災遺品を見学し、被災地域への理解を深める。

## R4年度 地域医療体験研修行程表

相双保健福祉事務所総務企画課

月日	時間	所要 時間	研修先	主な内容	経路
8月 26日	6:20 ~ 8:00	1:40	東北アクセス発～移動～医大着・準備		県道12号と国道114号経由
	8:00 ~ 8:10	0:10	県立医大	行程説明等 医学生、安田先生、菅家先生乗車	
	8:10 ~ 10:20	2:10	移動 (東北アクセスターミナルで休憩)		国道114号と県道12号経由 南相馬IC→富岡IC
	10:20 ~ 11:45	1:25	学びの森	NPO法人とみおか3.11を語る会の 語り部による講話	
	11:45 ~ 12:10	0:25	学びの森 (昼食)		
	12:10 ~ 12:20	0:10	移動		
	12:20 ~ 13:30	1:10	医療法人社団邦論会 とみおか診療所	今村先生による講話・診療所内見 学ほか	
	13:30 ~ 13:40	0:10	移動		
	13:40 ~ 16:15	2:35	ふたば医療センター附属病院	谷川先生による講話・院内見学ほ か	
	16:15 ~ 16:20	0:05	移動		
	16:20 ~ 16:55	0:35	とみおかアーカイブミュージアム	学芸員による案内・見学	
	16:55 ~ 19:15	2:20	移動 (東北アクセスターミナルで休憩)		国道6号線→浪江IC→南相馬IC →県道12号と国道114号経由
19:15 ~ 19:25	0:10	医大帰着後挨拶・解散	医学生、安田先生、菅家先生下車		

## 研修1箇所目

NPO 法人とみおか 3.11 を語る会による語り部口演



代表の青木淑子様より「崩壊と創世の狭間で」というタイトルで口演していただきました。複合災害による地域の「崩壊」と、復興へ向け一から地域を作り出す「創世」の間に揺れる被災者の方々の声、また、震災時の避難の様子や経過、富岡町の地理・歴史についても語っていただきました。

### 参加者の声

- ✓ 大学の授業では放射線の恐ろしさと医療についてデータ等を用いた講義を受けたことがあるが、今回は住民目線で臨場感あるお話しを聴けて感動した。
- ✓ 実際の避難の写真に実話が加わって分かりやすかった。
- ✓ 当時の様子に加え、これから私たちがどのように復興を支えていくかという視点で考えが深まる内容だった。
- ✓ 震災時の状況などを写真で見たことはあったが、実際の現場にいた方から話を聞くことは初めてだった理解が深まった。

## 研修2箇所目

### 医療法人邦論会とみおか診療所



富岡町の避難指示解除後、町の地域医療を支えるとみおか診療所診にお伺いしました。

1. 診療所内のMRI室、薬局、医局資料室等を見学しました。
2. 震災後から現在までに放送された、とみおか診療所と今村先生の特集ニュース（DVD）を拝見しました。
3. 震災後の今村先生の経験談やプライマリーケア（患者を総合的に診療すること）の大切さについてお話いただきました。

#### ＼ 参加者の声 ／

- ✓ 震災で私生活も崩れている中で、地域の医師として、また産業医等として様々な仕事をこなしていかなければならないという大変さが伝わりました。
- ✓ 地域に根付く医療を支える上での、今村先生の覚悟が伝わってきました。地域の高齢化が加速する中で、どのように診療所を維持していくかを考えさせられました。
- ✓ 地域医療の第一線で活躍する今村先生のお話を生で聞くことができただけになりました。
- ✓ 放射線が怖いから病院が戻ってこないのだと思っていたが、実際は人口やお金など経営面も絡んでいると知ることができた。

## 研修3箇所目

### ふたば医療センター附属病院



双葉郡の地域医療を担うふたば医療センター附属病院にお伺いしました。

1. 谷川院長より「東日本大震災と福島原子力発電所事故被災地の医療再生に向けた取り組み」、梅宮看護部長より「ふたば医療センター附属病院の取り組み」というタイトルで講話いただきました。
2. 院内を見学し医療機器の説明や入院患者と交流の場を設けていただきました。
3. 看護師との意見交換及び学んだことの発表を行いました。

#### ＼ 参加者の声 ／

- ✓ 医療器具や入院患者さんと触れ合い、医療現場を知ることができました。
- ✓ 双葉郡という地域の中核を担う病院がどのような理念で運営されているか分かった。
- ✓ 地域の医療を担う姿勢が細部にまで感じられて感動しました。
- ✓ 看護師さんとの意見交換を通じ、24時間対応病院の大変さを学びました。
- ✓ 入院のできる環境など二次的な役割を果たしながら地域の方たちに対する訪問診療をしていることを学びました。
- ✓ 患者さんは医療従事者からちょっとした気遣いに感謝していることが分かり、人々の暮らしには医療が不可欠であると感じた。

## 研修4箇所目

### とみおかアーカイブミュージアム



富岡町の成り立ちと複合災害がもたらす地域の変化を伝える、とみおかアーカイブミュージアムに伺いました。

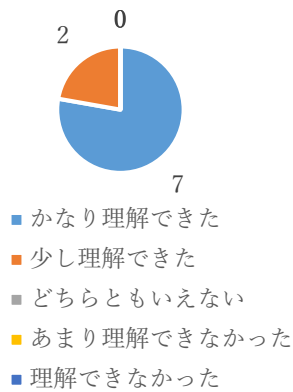
1. 学芸員の鈴木さんより、富岡町の昔の街並みの模型について紹介いただきました。
2. 震災遺品等の自由見学を行いました。

#### 参加者の声

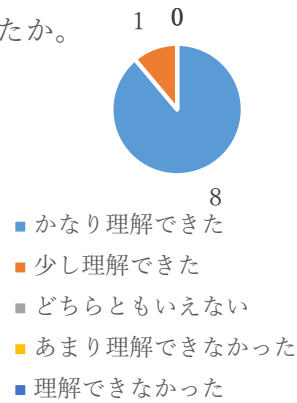
- ✓ 昔の様子を再現しようといった博物館は多く見てきたが、現代のありふれた日常をそのまま保存しようという試みは新鮮だった。
- ✓ 町全体の歴史を繋げてみることで、日常がたった1日で変わるおそろしさを少し感じることができた。とても悲しい気持ちになり、また、自分にもいつ同じことが起こるか分からないので日々を大切にしていこうと思った。
- ✓ 富岡町は3.11までは当たり前前の日常を送っていたのだなと感じました。今の風景からは想像できません。

アンケート結果

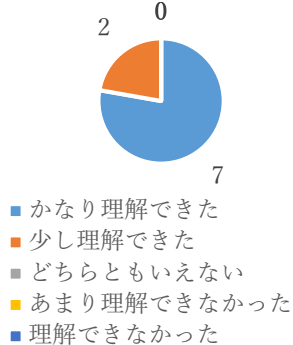
(1)NPO法人とみおか3.11を語る会の語り部口演を通じ、東日本大震災の当時の状況や様子について、理解することができましたか。



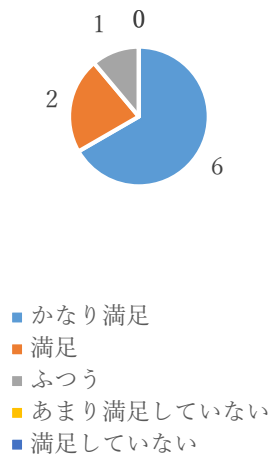
(2)医療法人社団邦諭会とみおか診療所の講話を通じ、被災地における地域医療についての現状や課題等について、理解することができましたか。



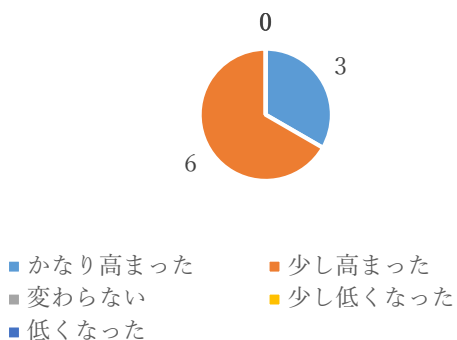
(3)ふたば医療センター附属病院での講話や見学等を通じ、ふたば医療センター附属病院の取組みや地域での役割について、理解することができましたか。



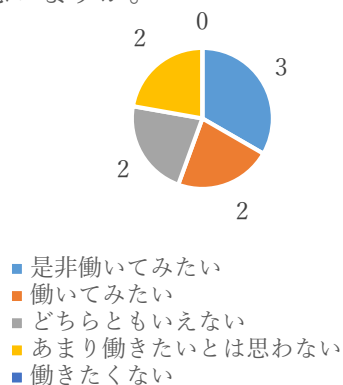
(4)研修全体を通じての満足度はどうでしたか。



(5)将来、医療過疎地域で医療に関わりたいという意識は以前より高まりましたか。



(6)今回訪れた相双地域で、将来、機会があれば働いてみたいと思いますか。





(7)今回の実習で得た成果や学んだこと・感想等

- ・復興といっても人と働き口と福祉がなくしては成り立たないということを学んだ。そのためにも、地域医療は重要である。
- ・被災地の地域医療は唯一無二であると思った。地域医療について興味が増した。
- ・新型コロナウイルスの影響で入学してからころまで病院の様子を具体的に見て回るのが初めてだったので、医療に対するモチベーションが上がった。
- ・地域医療のイメージが全て変わった。皆いきいきしていたのを見ることができてよかった。震災について新しい目線から学ぶことができた。今までで一番リアルな学びだった。
- ・相双地区の医療に関する講義や実習に参加すると、東日本大震災や医療過疎という地域的な問題により、限られた状況でどのようにしてよりよい医療を提供していくべきかを考えられるし、その都度新たな視点も得られるので収穫があった。
- ・震災当時東北地方にいなかったが、原発事故の恐ろしさについてリアルなお話を伺うことができ、とてもいい機会になった。

【～次年度の研修に向けて～】

新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となった今年度の研修は感染対策のため、通常の2泊3日から日帰りでの研修となった。

限られた時間で医療と復興の両面を学んでもらうため、初めにとみおか3.11を語る会による口演で、双葉郡の震災当時のお話を地理・歴史を絡めて学生に知ってもらえたことが良かった。引率教員（菅家先生）より「語り部のお話で双葉郡の歴史・経過を把握した上で医療についてフォーカスしていくという進め方について、理解しやすい流れだった」という講評を頂き、次年度においても、相双地域の特性を学ぶ訪問先を1箇所目に入れると良いと考える。

アンケート結果について、概ね研修は満足・理解していただいたという結果であったが、「相双地域で働いてみたい」という項目は、5段階評価のうち、1番良い「是非働いてみたい」から4番目の「あまり働きたくない」まで評価が分かれる結果となった。

「是非働いてみたい」「働いても良い」の理由として、「研修で医師やスタッフがとても親切だったから」「実際に相双地区で働いている様子を見れたから」「医師が不足している地域で少しでも貢献したいから」「身近でない相双地域の医療に携われれば、新たに経験が積めるから」「相双地域の方々の地元愛が強い部分がよいと思ったから」が挙げられた。「どちらでもない」「あまり働きたくない」の理由として、「自分が働けるか不安だから」「地元で働きたいから・戻りたいから」が挙げられた。

本研修の目的の根底には、研修を行った地域での医師確保がある。今回、ふたば医療センターでの看護師との意見交換会を通じて、「相双地域へのプラスイメージ」や「やりがい」を学生と共有できたこと、とみおか診療所で、医師として被災地域を支えることの「やりがい」「唯一無二の貢献」を学生が感じ取ったことが、「働きたい」に繋がったのではないかと考える。

次年度の研修では、①被災地域で働く（貢献できる）ことで得られる唯一無二の「やりがい」を学び取れる訪問先を探し、また、②医療スタッフを含め地域の方々と明るい話題で共有できる時間を長く確保するのが良いと考える。